

市民文芸

短歌

令和四年阿南市春季短歌誌上大会 選

自由題

優秀賞一位

自由とうたつた二文字ロシアでは厚いマスクの下でも言えぬ
里和倭己子

優秀賞二位

赤十字発祥の地と学びたるクリミヤ半島「どうぞご無事で」
福崎 孝子

優秀賞三位

十センチ高き視野持つ夫とゆく潜水橋は菜の花の中
森岡 圭子

優秀賞同点三位

植木市夫がかかえるしだれ梅今日一番の手柄のごとく
安本 生美

互選賞一位

声合わせ掛け算九九を唱えたる子らのマスクのぺこぺこ弾む
亀島賀陽子

互選賞二位

こだはりはいつしかうすれ春の灯の下で一人の夕餉を摂りぬ
喜来富士子

互選賞同点二位

指先を黒ずませつつ剥ぐ露のやさしき色を水に放てり
木内 照代

俳句

阿南市俳句連合会 選

蝌蚪生まるランドセルの児畦道に

野口 千代

葉桜に風も柔らか参観日

藤井李華女

ばらの幹三十年の太さあり

小西 晴美

鳥唄を聴く初夏のカフェテラス

中川よし子

兄逝きて仰ぎ見る空八尾の初夏

田上 隆敏

葉桜や覗けば暗し大師堂

竹谷 由美

人を呼ぶ老の力作芝桜

笹田 知睦

コロナの禍句会久しき聖五月

石井 政子

雑草の庭芍薬の花明かり

山野 賢治

晩春に朗朗響く詩吟かな

久米 浩一

川柳

阿南川柳会 選

目が覚めて今日の五体にまず感謝

野村 敏子

フライパン縁は卵を割るところ

橋本 征介

やれやれやつと出来たおかずは味不足

佐藤つたえ

日だまりへひとり命を干している

鈴木レイ子

心配は何んにもないが老い進む

田上 鶴子

兆しかと子らが危ぶむ物忘れ

高木 旬笑

眼鏡かけ更に拡大鏡で見ると

多田紀久代

一般応募

我が国の戦後のようなウクライナ

秋川 和子

生活の跡を残した深い山

島尾美津子

留守電にすれば受話器が欠伸する

武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

梅天閑居

折野 博子

霖雨蕭蕭霑稻田

霖雨蕭蕭として 稻田を霑し

無聊日日密雲天

無聊の日日 密雲の天

世虞惡疫面衣緊

世は惡疫を虞れて 面衣緊しく

五月蟄居依榻眠

五月の蟄居 榻に依りて眠る

夏雨

荒瀬左知子

層雲潑墨響遙雷

層雲潑墨 遙雷響き

風散炎塵白雨催

風は炎塵を散じて 白雨催す

倏忽吹涼消午熱

倏忽涼を吹いて 午熱を消し

沛然如秋洗浮埃

沛然秋の如く 浮埃を洗う

綠陰茶話

市田 嘉則

雨餘簷際兩霜眉

雨余の簷際 兩霜眉

鶯語綠陰茶話嬉

鶯語の綠陰 茶話嬉し

一別同窓無再會

一別同窓 再會無し

不飢衣食舊朋飢

衣食に飢えず 旧朋に飢う

※霜眉：霜のように白い眉毛

